

乃名多都奈ナタツナ、これら皆先祖より承嗣來續紀廿五の詔に、先祖乃大臣止之天、仕奉之位名乎繼止念氏位名は、位に職となり云々、先祖乃名乎、興繼比呂米武止不念阿流方不在、これらを以て、氏々の職をも姓をも名と云ることを知べし、續紀十七の詔に、進氏波、挂畏天皇大御名乎受賜利、退氏波、婆大御祖乃御名乎蒙氏之、食國天下乎婆、撫賜惠賜夫云々、男能未父名負兵、女波伊婆禮奴物爾阿禮夜、立雙仕奉、自理在止云々、こは天津日嗣所知看御職業を、天皇大御名又婆々は母にて後宮の御政を御母の御名と詔へり、次に父名負氏とあるも、父の職業を承繼を云り、

〔續日本紀十四〕天平十四年八月丁丑詔授造宮錄正八位下、秦下嶋麻呂從四位下、賜太秦公之名。〇一作本姓

〔新撰姓氏錄左京神別〕中臣志斐連

意富乃古連、雄略御世、東夷有不臣之民。〇中甲冑五重、跨進敵庭、無勞官軍、一朝夷滅、天皇悅其功績

更加名。字、號、暴代〇代一連、本作氏。

〔三代實錄三十四〕元慶二年九月廿二日甲寅、但馬國美含郡人從七位上若倭部氏世貞、貞道等三人、賜姓楓朝臣、氏世等、楓朝臣廣永男、文林之兄弟也、廣永改姓之日、漏脫名。字。今追而賜之。

〔日本書紀九十三〕七年十二月壬戌朔、天皇即問皇后曰、所奉娘子者誰也、欲知姓。字。皇后不獲已而奏言、妾弟名弟姬焉。

〔續日本紀二十一〕天平寶字二年十月丁卯、美濃國席田郡大領外正七位上子人、中衛無位吾志等言、子人等六世祖、父午〇午或作牟、留和斯知、自賀羅國慕化來朝、當時未練風俗、不著姓。字。望隨國號蒙賜姓。字。賜姓賀羅造。

〔伊呂波字類抄字人倫〕氏ウチ

〔節用集字〕氏ウチ